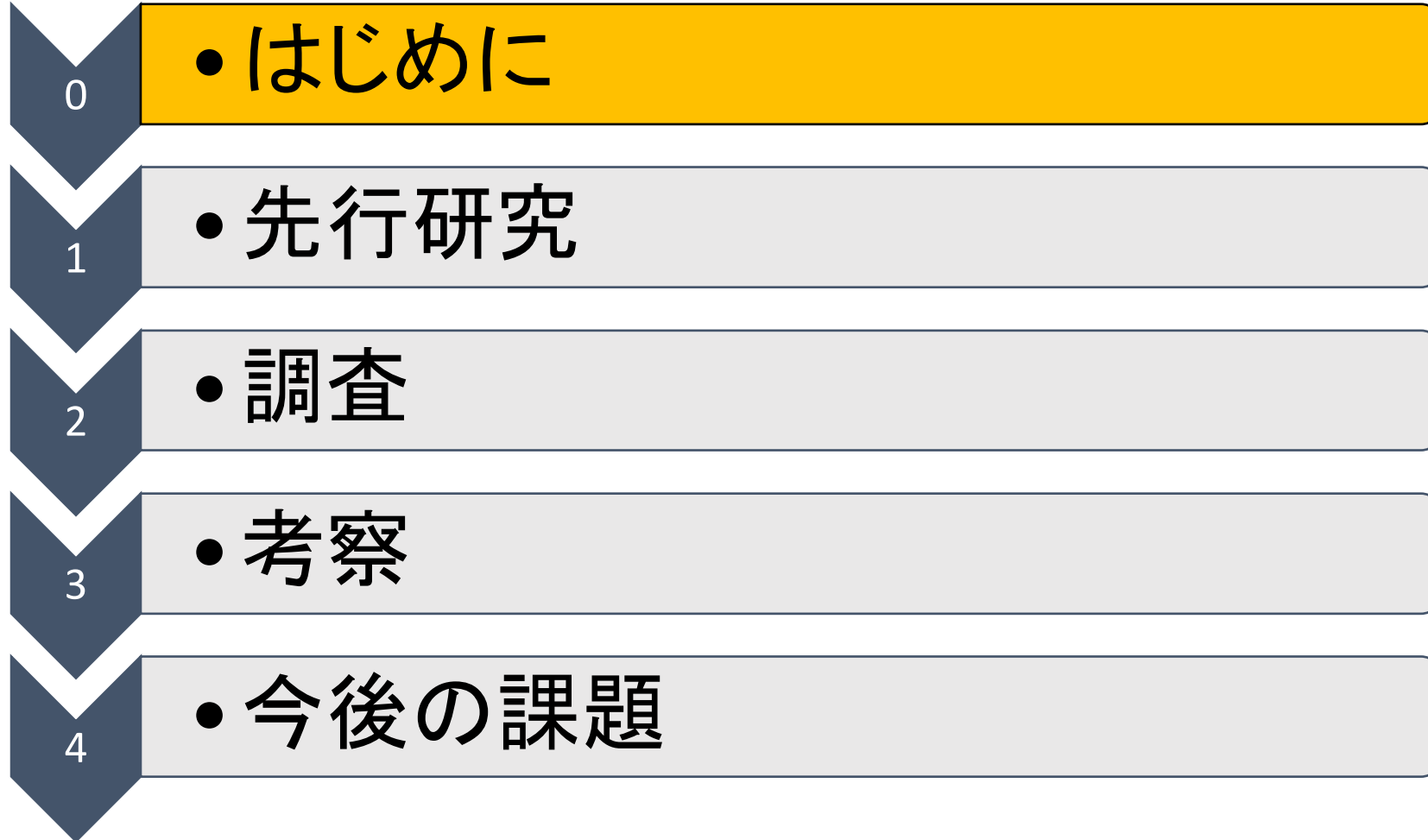


チュヴァシ語の名詞化接辞の 節名詞化機能について

東京外国語大学大学院
菱山湧人



発表の流れ



0. はじめに

0.1

• チュヴァシ語概要

0.2

• 問題の所在

0.3

• 本発表での主張

0.1. チュヴァシ語概要

- チュルク諸語オグル語群に属する唯一の現代語
- ロシア連邦チュヴァシ共和国の国家語
- ロシア国内の話者数は約104万人(2010年ロシア国勢調査)





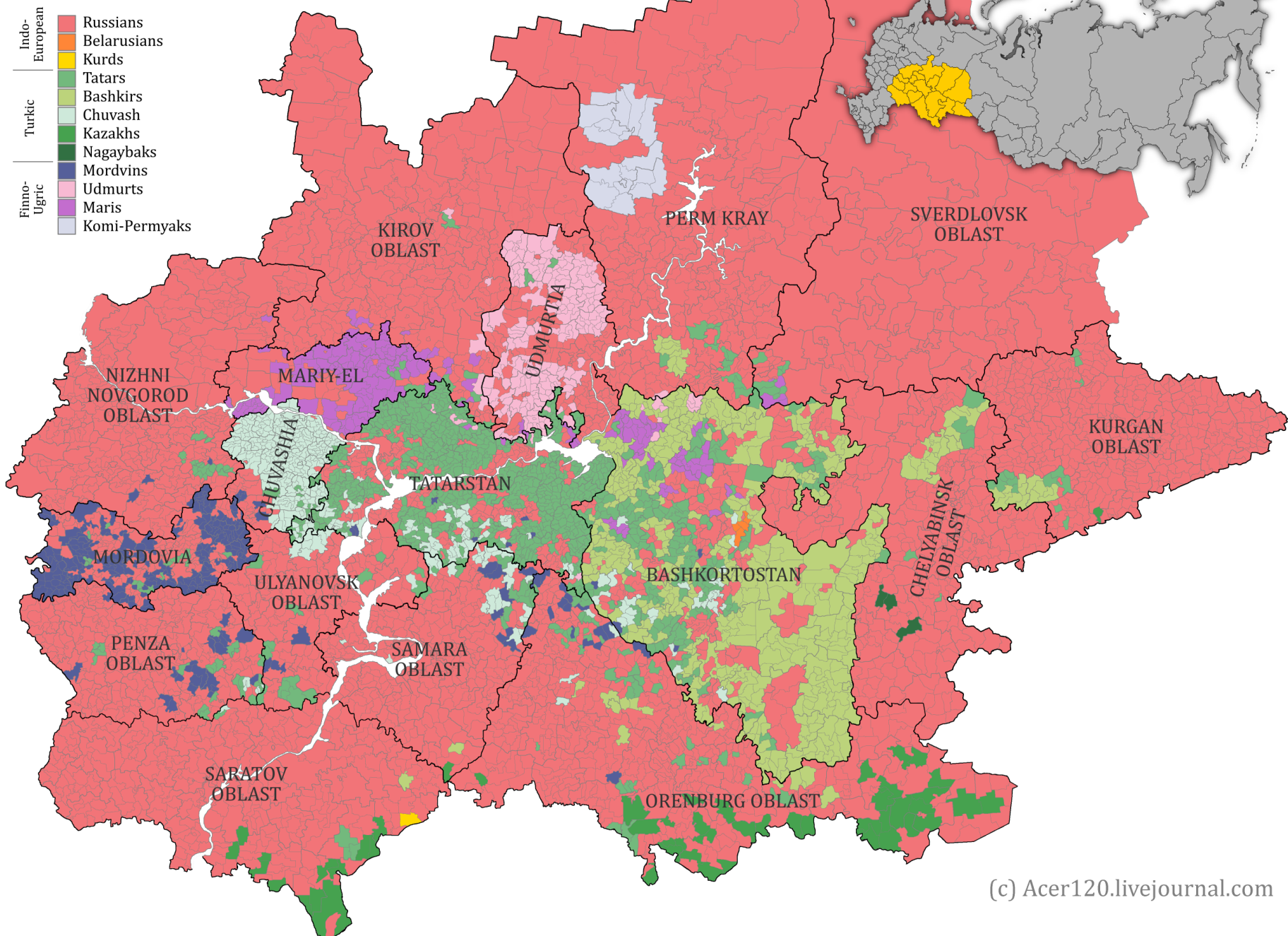
○
 Санктペテルブルク

○
 モスクワ

●
 チュヴァシ共和国

ロシア連邦

Ethnic map of the Ural-Volga region
based on the census of 2010



**Кунта
чӑвашла та
калаҫатпӑр**

ЧРОО ОНКВ «Ирӑклӑх» +79196538364

КРАСНАЯ ПЛОЩАДЬ



ХӘРЛӘ ТҮРЕМ



0. はじめに

0.1

• チュヴァシ語概要

0.2

• 問題の所在

0.3

• 本発表での主張

0.2. 問題の所在

➤ 三人称所有接辞 -i/-ě

- 所有関係標示 (例: unān *tetrač-ě* [それ.GEN ノート-3.POSS]「その人のノート」)
- 複合語標示 (例: čávaš čěl*x-i* [チュヴァシ 語-3.POSS]「チュヴァシ語」)
- 定性標示 (例: Xěrarām-ě *śamrāk.* [女性-3.POSS 若い]「その女性は若い」)

➤ 名詞化接辞 -i/-ě

- 名詞句形成 (例: písākk-*i* [大きい-NMLZ]「(それらのうち)大きい」)
- 名詞節形成 (例: anne čirle-*n-i* [母 病気する-PTCP.PST-CNMLZ]「母が病気になったこと」)

0.2. 問題の所在

➤ 先行研究の問題点

- -ě の異形態も現れうることについて言及されていない。
- 分布(どのような述語に付きうるか)について詳細に記述されていない。

0. はじめに

0.1

• チュヴァシ語概要

0.2

• 問題の所在

0.3

• 本発表での主張

0.3. 本発表での主張

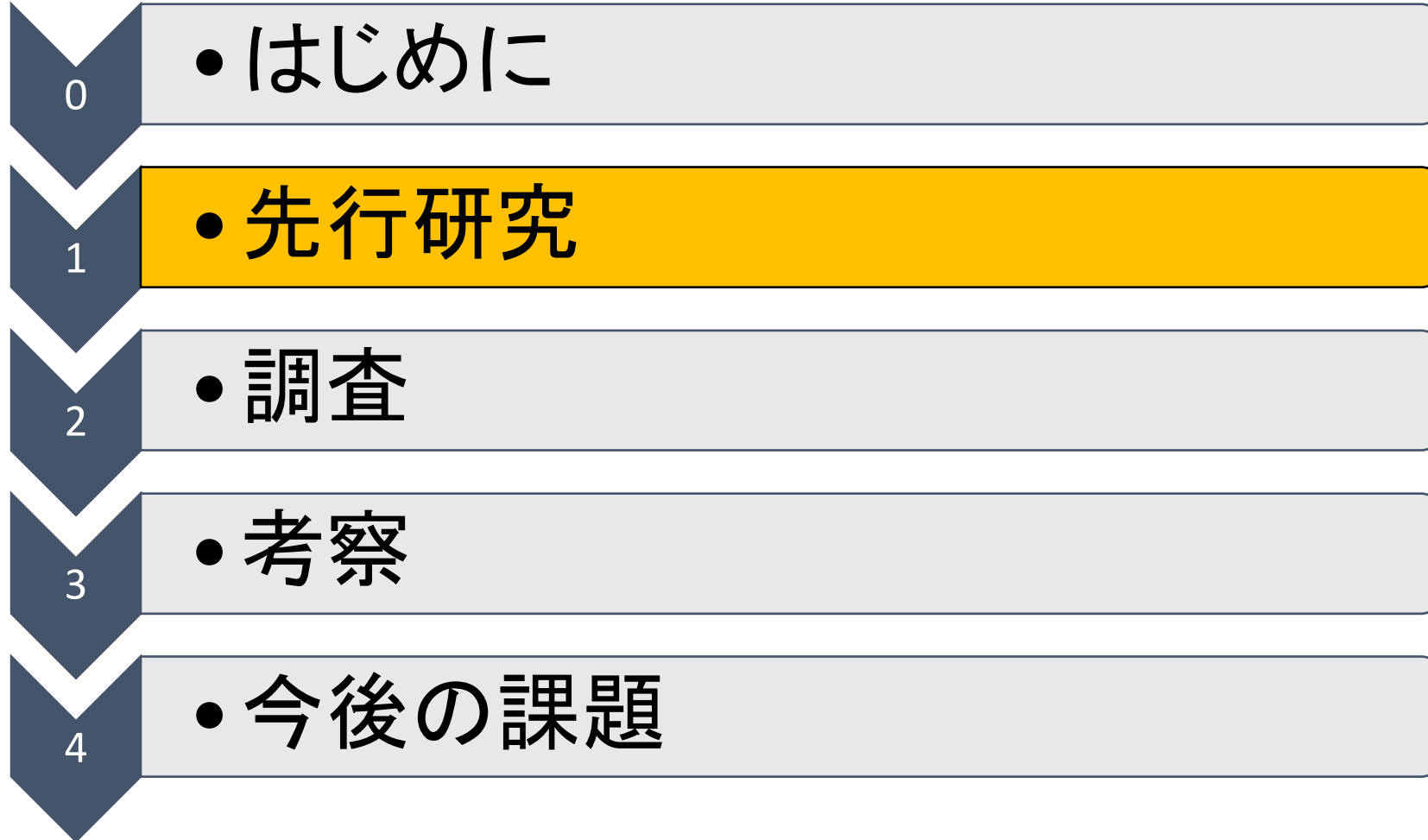
➤ -i/-ě が直接付くことによる節名詞化

動詞 > 形容詞 > 名詞

⇒ 述語の時間的安定性 (Time-stability) スケール (Givón 1984: 55) と合致

⇒ -i/-ě による節名詞化は述部要素の述語性が高いほど一般的

発表の流れ



1. 先行研究

1.1

●Luutonen (2011)

1.2

●Pavlov (2014)

1.3

● 問題提起

1.1. Luutonen (2011)

➤ 統語的名詞化接辞 -i, -xi, -sker についての研究

pisäkk- i	[大きい-i]	「大きいの」
kaś- xi	[夜-xi]	「夜の」
sukkär- sker	[盲目の-sker]	「盲目の人」

1.1. Luutonen (2011)

●-iによって形成される従属節の例

(1) [Šin kil-n-i]-ne epir kur-t-ămăr.
人 来る-PTCP.PST-CNMLZ-DAT/ACC 1PL 見る-PST-1PL
「人が来たのを私たちは見た。」

(2) [tură përr-i] šinčen
神 一-CNMLZ について
「神が一つであることについて」

(3) [Ukša purr-i]-ne pël-me-r-ëm.
お金 ある-CNMLZ-DAT/ACC 知る-NEG-PST-1SG
「お金があることを私は知らなかった。」

(Ashmarin 1898: 176)

1.1. Luutonen (2011)

➤-i の基本的な機能は名詞化

- 形容詞に付いた場合は名詞に、定形節に付いた場合は名詞化従属節になる

⇒この接辞の名詞化機能は統語的な性格を持つため、
統語的名詞化接辞 (syntactic nominalizer) と呼ぶことができる

1. 先行研究

1.1

• Luutonen (2011)

1.2

• Pavlov (2014)

1.3

• 問題提起

1.2. Pavlov (2014)

➤ 名詞の区別カテゴリー (категория выделения)

- 英訳は category of distinction (Luutonen 2011)
- 既知の対象を区別するカテゴリー
- これを表わす接辞は -i と -sker

例: pisäkk-i 「(それらのうち)大きいの」
 pisäk-sker 「(大きいもののうち、その)大きいの」

1.2. Pavlov (2014)

- 区別接辞は語だけでなく節にも付加し、その場合は従属節を形成する
- 節に付いた場合も、語に付いた場合と同様に、ホストの意味内容が文脈に大きく依存する

(4) “Tem ěš-pe=ččě ěntě?”

何か 仕事-INST=COP.PST MOD

“Pěl-mest-ěn pul-at’ [měn ěš-p-i]-ne.”

知る-NEG.PRS-2SG である-PRS.3SG 何 仕事-INST-CNMLZ-ACC

「どんなご用件でしたっけ？」

「知らないんだな、どんな要件かということを」

(Pavlov 2014: 112)

1. 先行研究

1.1

• Luutonen (2011)

1.2

• Pavlov (2014)

1.3

• 問題提起

1.3. 問題提起

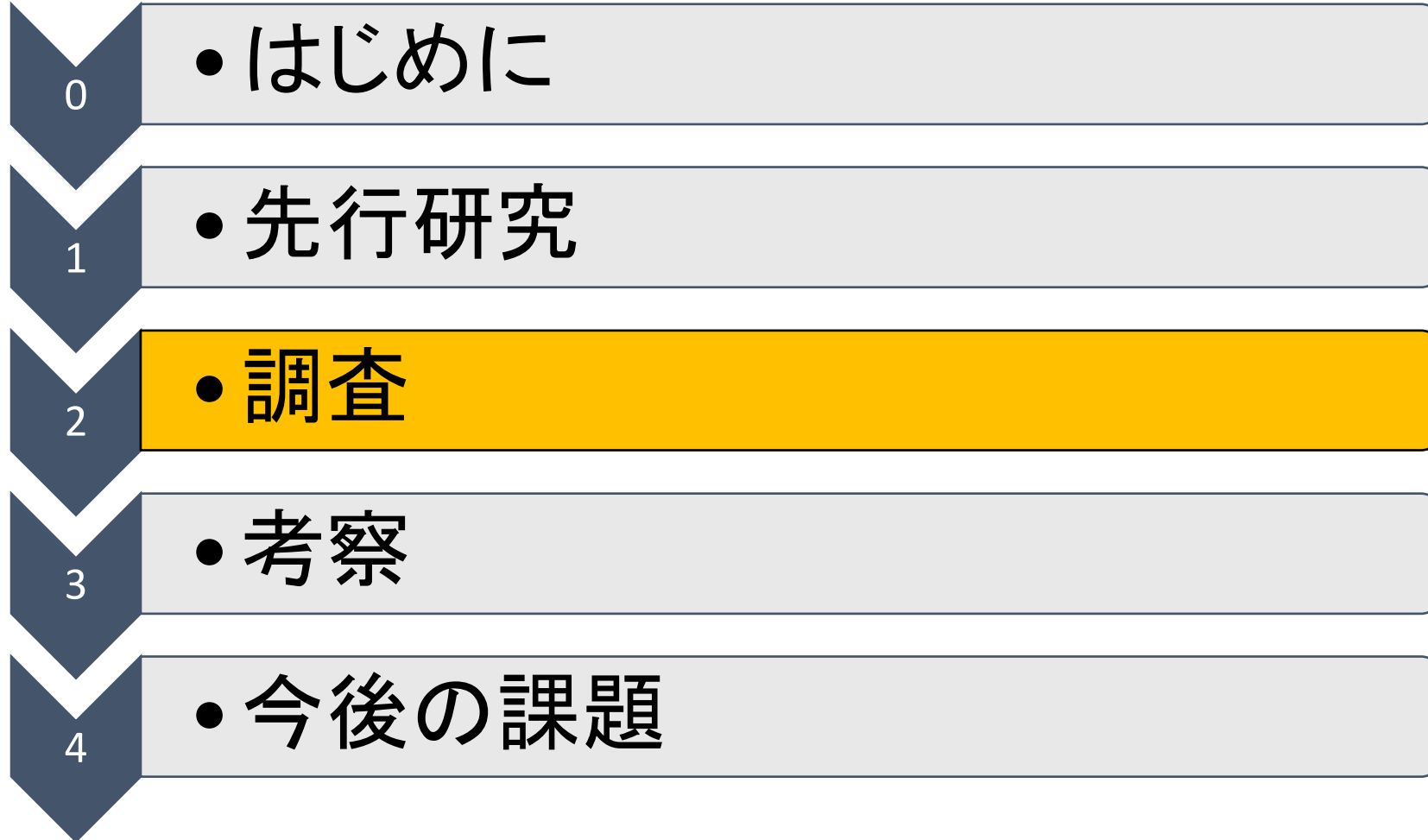
- -i の異形態のみが名詞化接辞として扱われている点
稀ではあるが -ě の異形態も節名詞化の機能を果たしうる
- 節名詞化の -i を区別接辞として扱っている点
節名詞化は前の文脈とは関係なく起こる現象（区別カテゴリーの定義に合わない）
- 節名詞化の -i/-ě の分布について詳細に記述されていない点
先行研究に挙げられている要素以外にも付く

1.3. 問題提起

➤ -i/-ě を統語的名詞化接辞とみなした上で、以下の2点を明らかにする。

- ① 異形態 -ě の分布
- ② 節名詞化の -i/-ě の分布

発表の流れ



2.1. 調査方法

- 調査対象の名詞節は主格項と与対格項、述部は名詞、形容詞、コピュラ、動詞とする
- コーパス調査とインフォーマント調査で
 - i/-ë が直接付くことによる節名詞化が一般的かどうかを調べる

2.1. 調査方法

➤コーパス: Čavaš čelxin ikčelxellě süpsi

- 検索でタグや正規表現を用いることができず、スロットが一つしかない

⇒述部の種類ごとに全体的な出現頻度を調査するのは困難であるため、

具体的な語形を入力して用例を収集し、可能なものに関しては出現数を調べる

(ある語形がコーパスから抽出されない場合はGoogle検索も用いて用例を収集)

➤インフォーマント: A. G. 氏(1999年生まれ、男性)

- 「容認可能」、「違和感がある」、「容認不可」のいずれかを選択

Чӑваш чӑлхин икчӑлхеллӑ сӑпсӑ

Шырав

[Шыра](#)[\[+\] хушма опцисем](#)

Шырав ӗсӗ:

чунран (тӗпӗ: **чун**) сӑмах форми сӑнчен тӗплӗнрех пӑхма пултаратӑр.

Вунӑ **чунран** пӑр делегат Ивановкӑна ярасӑӗ.

[От десяти душ одного делегата в Ивановку посылают.](#)

[Председатель юлташ // .](#)

Эпӗ хам пӑлӗме хӑпартӑм та кантӑкрӑн пӑхатӑп: Том сӑисӗмсирен тӑрӑх улӑхасшӑн, пӗтӗм **чунран** тӑрмашать, анчах аллисем хӑмпӑланса тухнӑ пирки ниепле те улӑхаймасть.

Меню

[Тӗп страница](#)[Корпус пирки](#)[Сайтсӑсем](#)[Кусӑрмалли текстсем](#)[Кусӑрнӑ текстсем](#)[Сӑннисем](#)[Тӑтӑшшисем](#)[Кӗскисем](#)[Корпус пӗлмен сӑмахсем](#)[Тӑтӑш усӑ куракан](#)[сӑмахсем](#)[Сайта кӑр](#)[Регистрацилен](#)

Статистика

2.2. 調査結果(名詞)

➤ -i/-ě が直接付くことによる節名詞化は一般的ではなく、コピュラ要素が現れる構造が一般的

● -i/-ě が直接付いた例

(5) Měķete-ne vīrās-sem [čāvašš-i]-ne pěl-eššě.
PN-DAT/ACC ロシア人-PL チュヴァシ人-CNMLZ-DAT/ACC 知る-PRS.3PL
「メゲデをロシア人たちは、チュヴァシ人であることを知っている。」

(Měķete sínĉen)

(6) [Kam-ě] pall=ax ěntě — niměš-sem.
誰-CNMLZ 明らか=EMPH MOD ドイツ人-PL
「(そいつらが)誰かということは明らかさ、ドイツ人らだよ。」

(İltān vāĉāra)

2.2. 調査結果（名詞）

●容認度

- (7) a. ?[Väl širavś-i]-ne pěl-et-ěn=i?
 それ 作家.CNMLZ-DAT/ACC 知る-PRS-2SG=Q
- b. [Väl širavśä pul-n-i]-ne pěl-et-ěn=i?
 それ 作家 である-PTCP.PST-CNMLZ-DAT/ACC 知る-PRS-2SG=Q
 「君はその人が作家であることを知ってる？」
- (8) a. ?[Väl širavś-i] pallä pul-č-ě.
 それ 作家-CNMLZ 明らか なる-PST-3SG
- b. [Väl širavśä pul-n-i] pallä pul-č-ě.
 それ 作家 である-PTCP.PST-CNMLZ 明らか なる-PST-3SG
 「その人が作家であることが明らかになった。」

2.2. 調査結果(形容詞)

➤-i/-ě が直接付くことによる節名詞化も一般的

●-i/-ě が直接付いた例

(9) [Kaś-čen kan-masär čät-ma yivärr-i] pallä pul-č-ě.
夜-まで 休む-CVB 耐える-INF 難しい-CNMLZ 明らか なる-PST-3SG
「夜まで休まずに耐えるのが難しいことが明らかとなった。」

(10) [śav tuyäm mën yatl-i]-ne
その 気持ち 何 名前の-CNMLZ-DAT/ACC
「その気持ちが何という名前であるかを」

2.2. 調査結果(形容詞)

●容認度

- (11) a. [Väl mĕn yatl-i]-ne pĕl-mest-ĕp.
それ 何 名前の-CNMLZ-DAT/ACC 知る-NEG.PRS-1SG
- b. [Väl mĕn yatlä pul-n-i]-ne pĕl-mest-ĕp.
それ 何 名前の である-PTCP.PST-CNMLZ-DAT/ACC 知る-NEG.PRS-1SG
「その人の名前がなんであるか私は知らない。」
- (12) a. [Väl mĕn yatl-i] pallă pul-ĉ-ĕ.
それ 何 名前の-CNMLZ 明らか なる-PST-3SG
- b. [Väl mĕn yatlä pul-n-i] pallă pul-ĉ-ĕ.
それ 何 名前の である-PTCP.PST-CNMLZ 明らか なる-PST-3SG
「その人の名前がなんであるかが明らかになった。」

2.2. 調査結果(コピュラ・動詞)

➤ -i/-ě による節名詞化が一般的

➤ わずかに -i/-ě なしの形式も

● -i/-ě が直接付いた例

(13) [Väl mĕnle erex ikken-ě] sire pallă mar=i?
それ どんな ウオツカ COP.NFIN-CNMLZ 2PL.DAT/ACC 明らか COP.NEG=Q
「それがどんなウオツカであるか、あなたは分かりませんか？」

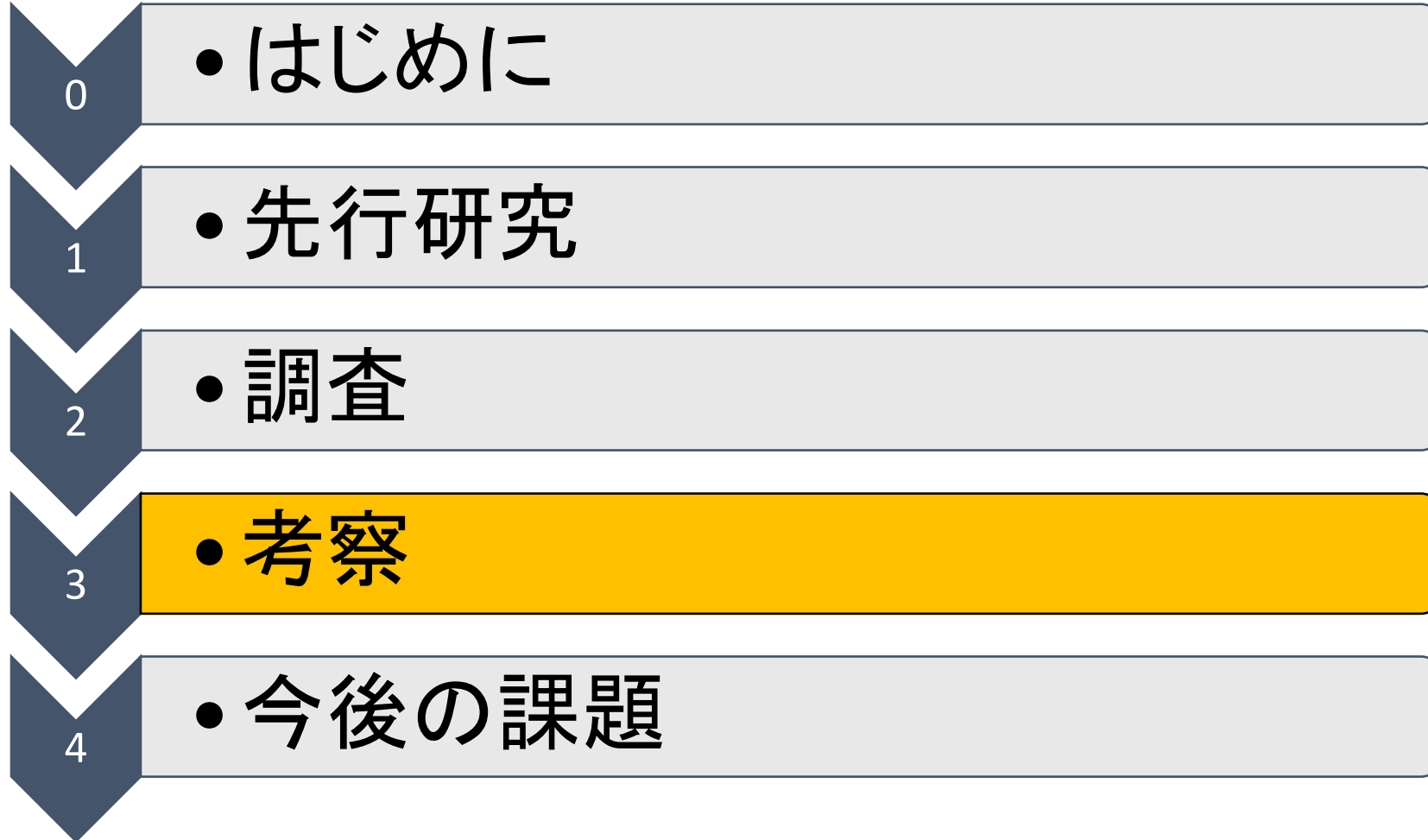
● -i/-ě なしの例

(14) Epĕ [esir kil-ess]-e šeś kĕt-se purăn-t-ăm.
1SG 2PL 来る-PTCP.FUT-DAT/ACC だけ 待つ-CVB 暮らす-PST-1SG
「私はあなたが来るのだけを待って暮らしていた。」

2.2. 調査結果(まとめ)

	∅	-i/-ě	COP(-i/-ě)
N	×	△	◎
ADJ	×	○	○
COP, V-PTCP	△	◎	×

発表の流れ



3. 考察

➤ 異形態 -ě の分布

- 稀だが見られ、非定形コピュラ ikken では -ě が付いた例の方が多い

ikkenn-i	34例
ikken-ě	42例

⇒ 異形態 -ě を認めるべき

- -i と -ě の異形態が現れうる点は三人称所有接辞と同様

⇒ 名詞化接辞が三人称所有接辞から発展したという説を支持

3. 考察

➤ 節名詞化の -i/-ë の分布

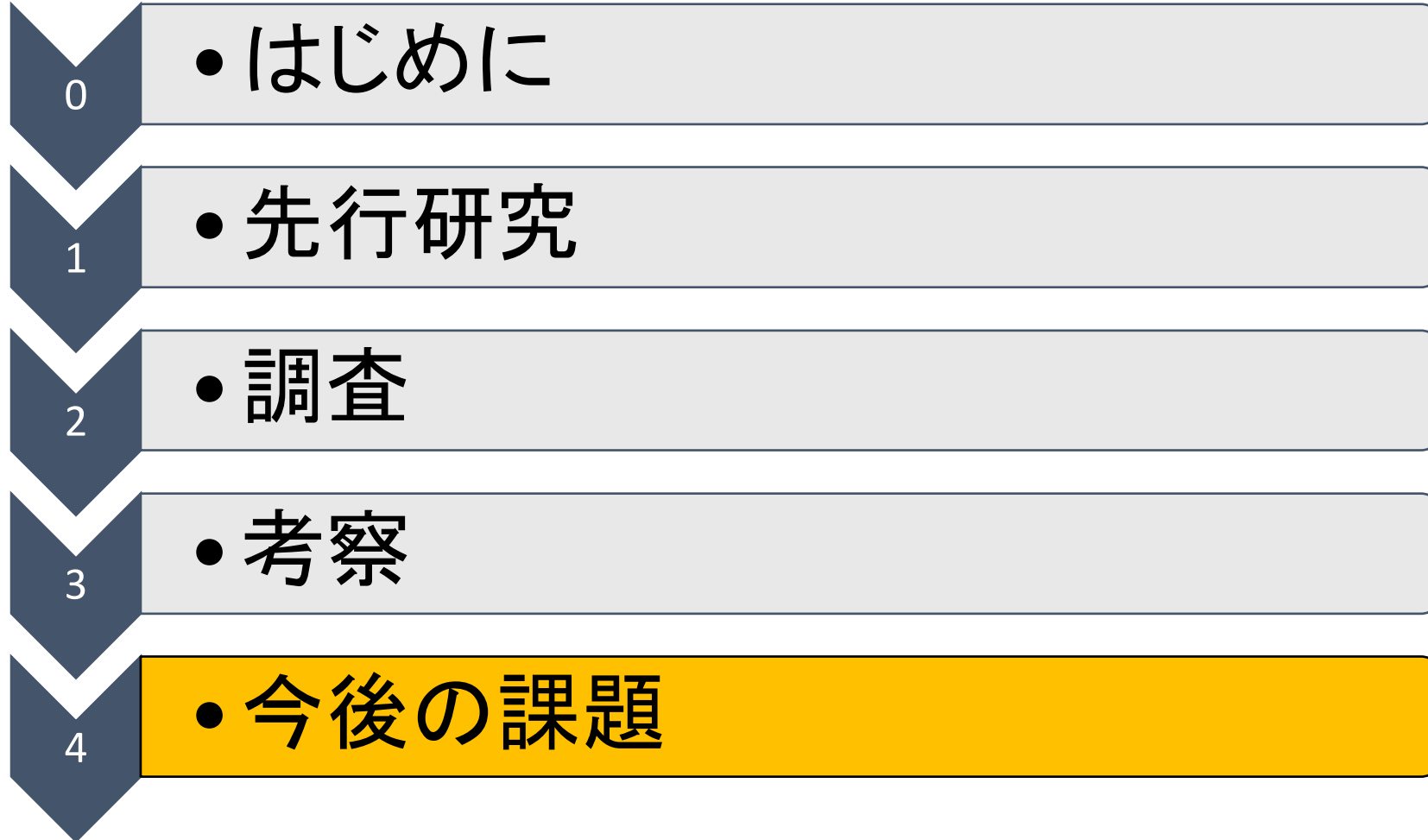
- 述部要素の種類によって異なる

動詞 > 形容詞 > 名詞

⇒ 述語の時間的安定性 (Time-stability) スケール (Givón 1984: 55) と合致

⇒ -i/-ë による節名詞化は述部要素の述語性が高いほど一般的

発表の流れ



4. 今後の課題

- 調査対象を限定
- 定量的調査が不十分
- インフォーマントが一人

⇒ より網羅的な調査が必要

4. 今後の課題

➤他のチュルク諸語の名詞節

- 属格所有構造をとるが、節名詞化要素も現れうる

(15) [O-nuŋ aya-m-**diy-i**]-ni tana-di-m.
3SG-GEN 兄-1SG.POSS-CNMLZ-3.POSS-ACC 気付く-PST-1SG
「私は、彼が自分の兄であることに気づいた。」(トルクメン語)

(Johanson 1998: 60)

(16) [Bez-nen anda qun-yan-**liq**]-ni beläl-mäs-lär.
1PL-GEN そこに 泊まる-PTCP.PST-CNMLZ-ACC 知れる-NEG.FUTI-3PL
「私たちがそこに泊まったことは知られないだろう。」(タタール語)

(Xisamova 2006: 240)

⇒他のチュルク諸語との対照も今後の課題

略号一覧

1, 2, 3		1, 2, 3 人称	NEG	negative	否定
ACC	accusative	対格	NFIN	non-finite	非定形
CNMLZ	clause nominalizer	節名詞化	OBLG	obligatoriness	義務
COP	copula	コピュラ	PL	plural	複数
CVB	converb	副動詞	PRS	present	現在
DAT	dative	与格	PST	past	過去
EMPH	emphasize	強調	PTCP	participle	形動詞
FUT	future	未来	Q	question	疑問
INF	infinitive	不定形	SG	singular	単数
INST	instrumental	具格	-		接辞境界
MOD	modality	モダリティ	=		接語境界

参考文献・調査資料

- Ashmarin, N. I. (1898) *Materialy dlja issledovanija čuvaškogo jazyka: Č. I. Učeniye o formax (Morfologija)*. Kazan'.
- Givón, T. (1984) *Syntax: A functional-typological introduction. Volume I*. Amsterdam: John Benjamins.
- Johanson, L. (1998) The structure of Turkic. Johanson, L. and É.Á. Csató (eds.) *The Turkic languages*. London, New York: Routledge. 30-66.
- Luutonen, J. (2011) *Chuvash Syntactic Nominalizers: On *-ki and its Counterparts in Ural-Altai Languages*. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.
- Pavlov, I. P. (2014) *Sovremennyj Čuvaškij jazyk: monografija: v 2 tomax. Tom 2: Morfologija*. Čeboksary: Čuvaškij gosudarstvennyj institut gumanitarnyx nauk.
- Timberlake, A. (2004) *A reference grammar of Russian*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Xisamova, F. M. (2006) *Tatar tele morfologiäse*. Qazan: Mäğarif näşriyatı.

- Čävaš čělxin ikčělzellě süpsi (<http://corpus.chv.su/>) [最終閲覧日: 2020/12/3]
- İltän vächära (http://elbib.nbchr.ru/lib_files/0/kchl_0_0000654.pdf) [最終閲覧日: 2020/12/3]
- Mëkëte šinčen (http://elbib.nbchr.ru/lib_files/0/kkni_0_0001878.pdf) [最終閲覧日: 2020/12/6]

Тимлѣ пулнѣшѣн тавтапус!



補足

●名詞述語に -i が付いた例

- (17) “Man ăš-ra san ač-u üs-et’...”
1SG.GEN 中-LOC 2SG.GEN 子供-2SG.POSS 育つ-PRS.3SG
“[Man ač-i] ăştan pallă?”
1SG.GEN 子供-CNMLZ どこから 明らかだ
「私の中であなたの子供が育っている...」
「俺の子供であることがどうやってわかる？」

(Pavlov 2014: 112)

●名詞節の主語が一人称単数の例

- (18) Ara, měn-e kirlě sana [ep kamm-i]?
本当に 何-DAT/ACC 必要な 2SG.DAT/ACC 1SG 誰-CNMLZ
「本当に、私が誰かということがお前に何のために必要なんだ？」

(Tapă)

補足

●位格述語・奪格述語に -i が付いた例

- (19) [Esě kil-t-i savāntar-at'.
2SG 家-LOC-CNMLZ 喜ばせる-PRS.3SG
「君が家にいることは喜ばしい。」

(Pavlov 2014: 116)

- (20) [Ep yut-rann-i]-ne čuxl-aśśě.
1SG よそ-ABL-CNMLZ-DAT/ACC 見破る-PRS.3PL
「私がよそ者 (lit. よそから) であることは見破られている。」

(Pavlov 2014: 116)

補足

- 名詞述語文と形容詞述語文(主節でコピュラは現れない)

(21) a. Epě inžener.
1SG エンジニア
「私はエンジニアだ。」

b. Esě sámřāk.
2SG 若い
「君は若い。」

(Andreev 1966: 60)

補足

●属格所有構造の名詞節(トルコ語、マリ語)

- (22) [(Sen-in) piyano çal-dıĝ-ın]-ı bil-m-iyor=du-m.
2SG-GEN ピアノ 弾く-PTCP.PST-2SG.POSS-ACC 知る-NEG-PROG=COP.PST-1SG
「君がピアノを弾くのを私は知らなかった。」(トルコ語)
(Göksel and Kerslake 2005: 351)
- (23) [Ečan-ən tol-mə(-žə)]-m vuč-ena.
PN-GEN 来る-PTCP.PASS(-3SG.POSS)-ACC 待つ-PRS.1PL
「エチャンが来るのを私たちは待っている。」(マリ語)
(Riese et al. 2017: 215)